

願 がん

生 しょう



令和6年7月  
第54号

今号の言葉

苦が外からやって来ると  
思っている間は、苦は  
なくならない

蓬茨祖運 ほうし そうん



私たちの人生は楽しいこともあります。それよりも苦しいことの方が多いような気がします。思い通りにならないことが次から次へとやってきて、なかなか心が休まる事がありません。そんな時に他人を見ると「何で自分ばかりこんな目に会わなくてはならないのだろうか」と虚しく感じることがあります。どうすれば苦しみが無くなるのでしょうか。

しかし私たちの苦しみはそう簡単にはなりません。仏教には「一切皆苦」という言葉があります。この世の一切はみな苦しみであるという事ですが、そう言えるのには理由があります。私たちはどこまでも都合よく、自分中心の立場でしか物事を受け取ることが出来ないからです。その結果、それ自体が道理として苦しむべき必要のない縁えんであつても、「私の良し悪し」でしか受け取れないので、他と比較して優劣を付けたり、自分の望む条件でしか現実を受け入れられません。自分の思いに叶えば楽であり、思いに叶わなければそれは苦でしかありません。私を苦しめるものが単純に外から来ているだけではなく、自分が自分の狭い世界に縛り付けていることとなります。絶対に思い通りにならない道理でさえも、思い通りにならないければ苦しいのです。仏さまの教えとは人間はそのような自分ではどうにも解決出来ないものを内側に抱えている事を教えて下さり、教えを通してもっと広く客観的な眼を持って自分の内外を見つめていくように、いつも私たちに呼び掛けて下さっています。

## 祠堂経会のご案内



今年も祠堂経会しどうきょうえの季節になりました。祠堂経会しどうきょうえとはこれまでに亡くなられたお寺のご門徒の方々の法名ほうみょうを一同にお飾りし、読経よみぎょうを行い讃嘆さんたん供養する仏事です。同時にこの一年間に亡くなられたご門徒の物故者法要を勤めます。門徒の皆さまのご先祖の法名を一同にお掛けするのはこの行事だけです、是非お参りください。

昼食にお齋とき（食事）の提供を行います。亡き人への思いを込めた大切な仏事です。午前だけでも午後だけでも構いませんので、どなたでもお誘い合わせてお参りください。

日時 七月十三日（土）  
時間 午前九時半～ お勤め・法話  
午後十三時～ お勤め・法話  
法話 石川正穂師（富山市 玉永寺住職）  
午後の法話は当寺副住職が行います  
お齋とき（食事）を準備しています。是非お参りください。

## 夏の行事のご案内



暁天講座きょうてんこうざとは夏場でも比較的涼しい早朝に法話を聴聞ちやうもんする仏事です。是非お誘い合わせてお参りください。

●暁天講座  
日時 八月十一日（日）海の日  
時間 午前五時十五分～六時三十分  
講師 野田博俊師（朝日町宮崎明光寺住職）  
講題 仏教と孤独

また当寺では主要行事のない月の十日に仏教講座を行っています。講師は副住職で、六月からは平生のお勤めで読んでいる、帰命無量寿如来きみやうむりやうじゆにょらいでおなじみの「正信偈しょうしんげ」の解説を行っています。基本的に一回につき赤本一頁の解説を行う予定です。一緒に「正信偈しょうしんげ」を学びましょう。

●仏教講座  
日時 八月十日（土）、次回は九月十日（火）  
時間 十三時半～十四時半

### おかみそり



六月十七日に合同帰敬式ききようしきを行いました。帰敬式ききようしきとは通称「おかみそり」と呼ばれ、仏弟子ぶつでしとしての法名ほうみやうをいただく儀式になります。法名は本来亡くなられてからいた

だくものではなく、お元気な時に第二の誕生日として人生の節目としていただくものです。これまでは希望者の方と個別にお寺で行っていましたが、多くの方の人生を見つめていく機会になってほしいという思いから、今回は開催日を決めて受式者を募りました。今年三名の受式者がおられ、「ずっとおかみそりを受けたい」と思っていたけれど、なかなか機会がなかったもので、このような機

会は嬉しい」との事で、受式後には「心がすっとした」という感想が聞かれました。この帰敬式は今後も毎年行っていく予定ですので、是非受式して頂ければ嬉しいです。



境内に咲く数珠掛け桜



英語クッキングサークル



帰敬式の様子

### お寺の日常風景



副住職と遊ぶ塾の子ども達



お寺の梅で梅シロップ作り



小中学生の勉強会



この寺報「願生」は最近のバックナンバーを含めて、お寺のホームページでもご覧になれます。

## 坊守日記



## 編集後記



四月二十四日から一泊二日で京都の東本願寺で行われた若坊守研修会わかぼうもりに参加させていただきました。若坊守わかぼうもりとは、私のような副住職の配偶者の事を指します。全国から同じような境遇の方が来られており、先生による講義を聞き、日々の生活の事や悩みをご本山での寝食を共にしながら語り合ってきました。またご本山の朝勤行あさこんぎぎょうにも参加してきましたが、とても清々しい思いでした。先生の講義の中で「浄土真宗の一番大事な事は聞法もんぽうである」という言葉が一番印象に残っています。皆さんも機会があれば是非お参りしてください。またその日は娘の中学の遠足があり、私がお弁当を作れない代わりに、夫の副住職がお弁当を作りました。娘も「お父さんありがとう」と大喜びでした。

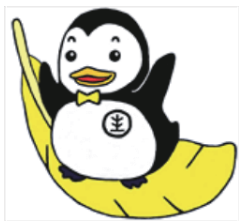


ご本山・東本願寺の山門



娘への副住職手作り弁当

先日滋賀県で保護司ほごしを務める男性が、更生支援こうせいを担当する男性に殺害されるという痛ましい事件が起こりました。新聞やニュースでも大きく報道されており、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。私も三年前より保護司として活動しており、現在も担当する保護観察対象者と月に数回自宅で面談を行いながら、更生支援こうせいを行っています。今回の事件は当然他人事とは思えず、大きな衝撃を受けました。保護司とは罪を犯した保護観察対象者の社会的立ち直りを支援する非常勤の国家公務員です。責務はとても大きく、やりがいもあります。このようなりスクがある為に今後はなり手不足が懸念されます。そうは言えども今後はリスク管理を行いながら、一人で背負わずに支援を行っていきけるような体制作りが望まれます。



## 辻徳法寺

派 谷 跡 聖 跡 寺  
大 人 聖 柿 寺  
宗 親 三 本

〒938-0031

富山県黒部市三日市3214

TEL・FAX(0765) 52-0791

ホームページアドレス

<https://tokujoji.net>

@temple\_english\_tokuhoji



今後の仏教講座の予定は8月10日(土)13時半～です。

9月10日(火) //

正信偈のお話を1ページずつ行っています。一緒に学びましょう。